

対話を通して、遊びを広げていく園児をめざして ～発見やイメージを言葉で表現し友達と共有していくための手立ての工夫～

那覇市立大道みらいこども園保育教諭

浦崎 祥代

〈研究の概要〉

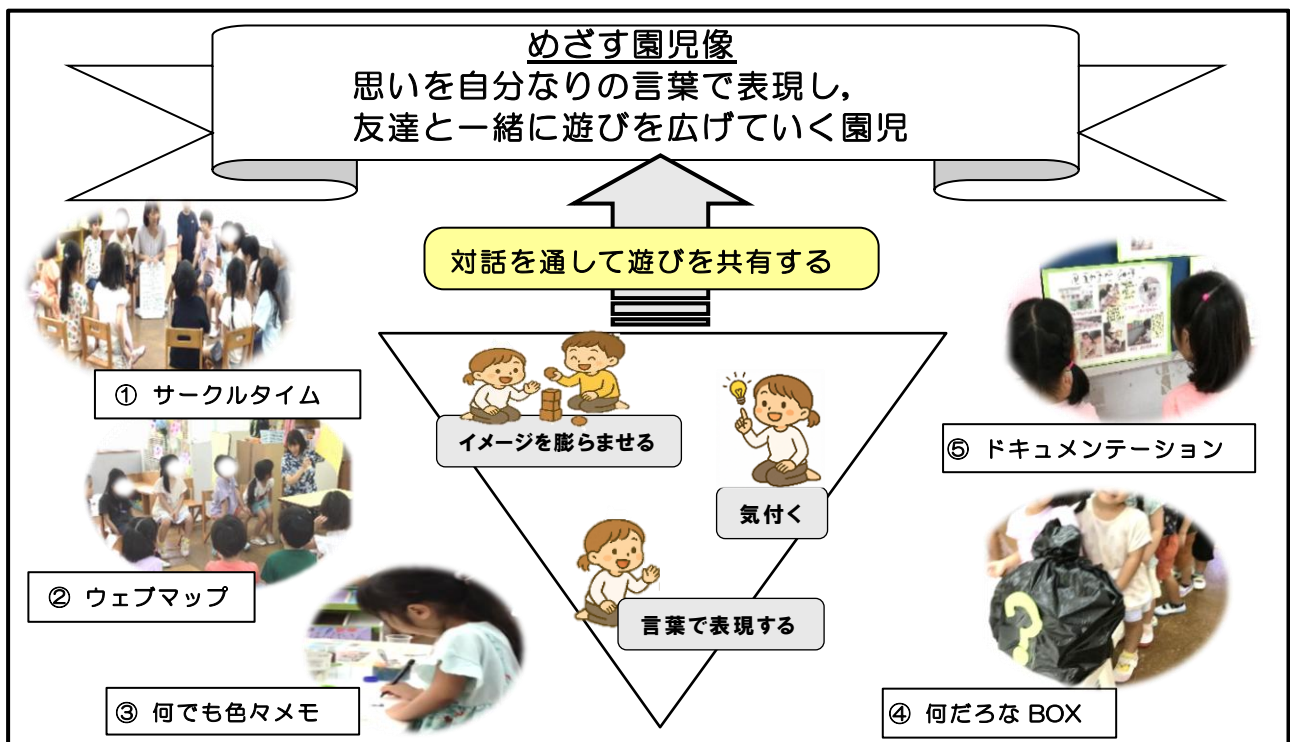
学級の実態として、環境に主体的に関わり、体験したことや考えたことなどを、振り返りの場で積極的に伝えようとする姿が多く見られる。しかし、友達の考えを聞き、自分の遊びに取り込んだり、友達と互いに刺激し合ったりしながら、一緒に遊びを広げていく園児の姿は少ない。

そこで、園児が、発見やイメージを言葉で表現し、保育教諭や友達と共有しながら一緒に遊びを広げていけるようにするため、保育の手立てを工夫した。

実践では、サークルタイムでの対話を中心に、園児同士がイメージを共有し、遊びを広げていくことができるように、保育教諭による 5 つの意図的な手立てを取り入れて保育を展開した。またその際、「SOAP」の記述法を用いた保育記録を継続的にとり、個々の育ちの姿に寄り添った援助を行った。

その結果、園児は安心して自分の思いや考えを、言葉やその園児なりの方法で表現できるようになった。さらに、友達との関わりが広がり、発見やイメージを言葉で表現し合い、友達と共有しながら、一緒に遊びを広げていく姿につながったと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	2
	1 対話を通して遊びを広げていくとは	
	2 発見やイメージを言葉で表現し、共有していくための手立ての工夫について	
	(1) 発見やイメージを言葉で表現し、共有するとは	
	(2) 発見やイメージを共有していくための手立てについて	
	(3) 対話を通して発見やイメージを共有していくための保育教諭の援助	
	(4) 保育記録を通した園児理解と、保育の改善・充実に向けた工夫	
V	保育実践	4
	1 保育計画	
	(1) 実態把握	
	(2) 保育計画	
	2 実践事例	
	(1) 発見やイメージを言葉で表現し、共有していくための意図的な手立ての工夫	
	(2) 事例1 発見や考えを言葉で表現するための手立ての工夫 ～思いを言葉で表現することに慎重なA児の変容を通して～ 【考察】	
	(3) 事例2 考えやイメージを共有して遊びを広げる手立ての工夫 ～B児の対話を通した遊びや友達との関わりの変容～ 【考察】	
	3 園児の変容	
IV	成果と課題	10
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

対話を通して、遊びを広げていく園児をめざして ～発見やイメージを言葉で表現し友達と共有していくための手立ての工夫～

那覇市立大道みらいこども園保育教諭 浦崎 祥代

I テーマ設定の理由

近年、少子化や環境問題、急速なAIの発達などによって子供たちを取り巻く状況は日々変化している。文化や価値観の異なる人々と関わる多様性の中で、対話力の基盤を育むために幼児教育においても、自分の思いを表現し、友達の思いを受け止める場をつくることが求められている。幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(以下教育・保育要領解説)では「保育教諭等は、園児が言葉で伝えたいような経験を重ね、その経験したことや考えたことを自分なりに話すこと、また友達や保育教諭等の話を聞くことなどを通じ、言葉を使って表現する意欲や、相手の言葉を聞こうとする意欲を育てることが大切である」と示している。このように、互いに考えを伝え合い、相手と折り合いをつける経験が求められる今、認定こども園(以下こども園)での遊びや生活においても、言葉で伝え合う楽しさを味わう経験が重要であると考ええる。

前年度、中堅教諭等資質向上研修において「安心して過ごせる居心地の良い学級づくり」をテーマに、園児との対話を通じた援助の工夫について、実践に努めた成果として、自分の考えが認められた安心感から、様々な活動に喜んで参加するようになるなど、学級の変容が見られた。しかし、中には自分の思いを押し通そうとしたり、思いが通らないと諦めたりする姿が見られるなど、課題が残った。また、本年度の学級の実態としては、身近な環境に高い関心を示し、体験したことや考えたことなどを、振り返りの場で積極的に伝えようとする姿が多く見られる。しかし、友達の考えを聞き、自分の遊びに取り込んだり、友達と互いに刺激し合ったりしながら、一緒に遊びを広げていく園児の姿は少ない。

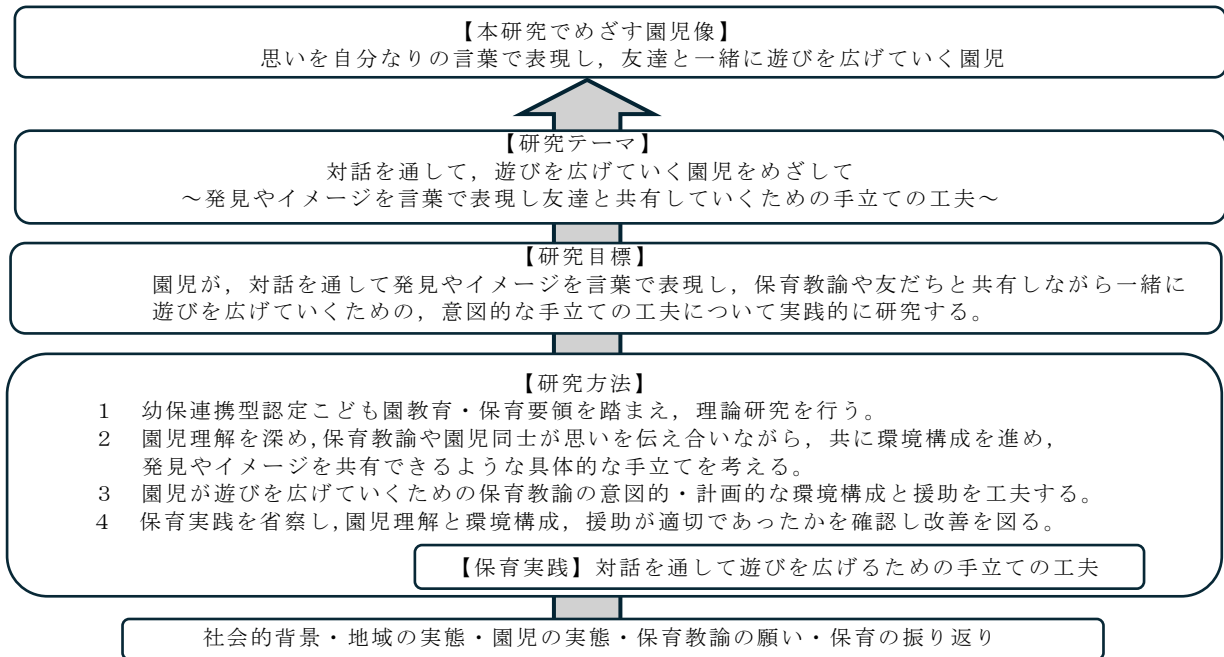
これまでの保育を振り返ると、経験や発達に違いがある中で園児一人一人の育ちつつある姿を、その園児の発達段階として十分に理解せずに捉え、適切な援助を行えていなかったのではないかと考える。園児が自分の思いを表現し、友達と互いに刺激し合いながら遊びを広げていくためには、保育教諭が園児の興味・関心や発達段階に応じた援助を工夫し、対話を通して働きかけていくことが求められると考える。

そこで本研究では、前年度の園児の育ちをつなぎ、園児の実態や興味・関心に寄り添い、園児と共に環境を構成する共主体の援助を通して、対話的な関わりを深め、遊びを広げていく実践を行う。園児が、発見やイメージを言葉で表現し、保育教諭や友達と共有できるような手立てを工夫することで、一緒に遊びを広げていくことができるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

園児が、対話を通して発見やイメージを言葉で表現し、保育教諭や友達と共有しながら一緒に遊びを広げていくための、具体的な手立ての工夫について実践的に研究する。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究内容

1 対話を通して遊びを広げていくとは

ロシアの思想家バフチンは、対話を「一方的ではなく相互に作用するもの」とし、「他者との対話を通して自分の考えも豊かに育つ」ことを述べている。このことから、園児が自分と他者とのやりとりの中で、他者の話を聞き、伝え合う喜びを感じながら、新しい視点で自らの考え方を広げていくことが幼児期における「対話」であると捉える。

また、教育・保育要領解説において、園児は様々な事柄や現象に出会い、他の園児や保育教諭と感動を共有したり、共にその対象に関わって活動したりすることによって興味・関心が広げられ、高められていくことが記されている。このように、園児はこども園での安心できる生活の中で、次第に保育教諭や友達との関わりを広げていき、自分の思いを言葉で表現するようになる。そして、環境を通した遊びの中で、自分の感じたことや考えを保育教諭や友達と伝え合い、友達の考えを聞くなどの対話を通して、自分とは違う新しい視点の考え方に気付く。そこからさらに考えやイメージを膨らませ、自分の遊びに取り入れることで、遊びの内容や関わりがより豊かに深く発展していく過程を「遊びを広げていく」と捉える。

2 発見やイメージを言葉で表現し、共有していくための手立ての工夫について

(1) 発見やイメージを言葉で表現し、共有するとは

教育・保育要領解説では、園児のこども園での生活について、「園児一人一人の世界から徐々に他者と感動などを共有し、イメージを伝え合うなど互いに影響を及ぼし合い、興味や関心の幅を広げ、言葉を獲得し、表現する喜びを味わう」と示されている。また園児は、心動かされる体験を通して、その気持ちを思わず口に出したり、相手に共感してもらったりする中で、伝え合う喜びを味わえるようになることが大切であることが述べられている。さらに、無藤（2017）は、著書『領域 言葉』の中で、言葉で伝えたいくなるような体験や、豊かな言葉を生み出す基盤の重要性について述べており、共通の生活体

験や、体を通して伝わる感覚を共有し、共感し合っていくことも、子どもたちのイメージの世界を豊かにするとしている。

これらのことから、園児はこども園での遊びや生活を通して、保育教諭や友達と一緒に笑ったり考えたり、発見したりする様々な体験を共にしていくことで、保育教諭や友達との関わりを深めていくと考える。そして、一緒に経験したことや、イメージを言葉で伝え合い、共に感じるものが「発見やイメージを共有する」ことであると捉える。

そこで、園児が発見やイメージを言葉で表現し、友達と共有していく過程を図1にまとめた。本研究では、この図を基に園児一人一人の発達段階を捉え、それぞれの園児の育ちの姿に寄り添った援助を実践すると共に、実践後の評価に用いて園児の変容を見取る。

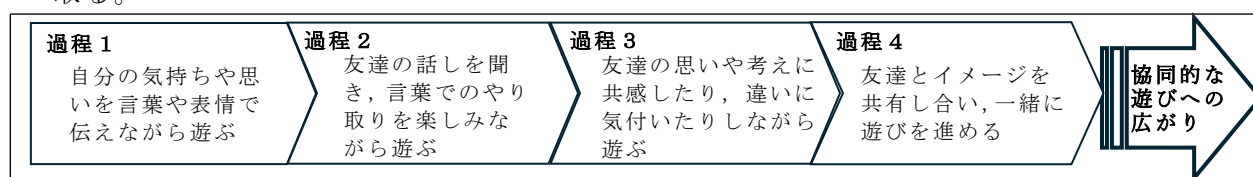


図1 教育・保育要領を参考に「発見やイメージを言葉で表現し友達と共有していく過程」を筆者が作成

(2) 発見やイメージを共有していくための手立てについて

教育・保育要領解説では、「環境を通して行う教育及び保育は、園児の主体性と保育教諭等の意図がバランスよく絡み合って成り立つ」と示している。また保育教諭は、園児が主体的に環境に関わり、豊かな体験ができるよう、意図的、計画的に環境を構成しなければならないことが述べられている。

そこで本研究では、輪になって行う話し合い活動としての「サークルタイム」を中心に、対話的な関わりを通して、園児の思いと保育教諭の意図的・計画的な保育のねらいが互いにつながる「共主体」（大豆生田 2023）の保育を展開する。大豆生田は著書の中で、「共主体」について「子どもと大人の主体がバランス良く共存、融合し、互いに学び、ともに成長し合う主体」と定義付けている。序論でも触れたように、昨年度の実践においては、園児が安心して過ごせる学級づくりを基盤に、対話を通して園児の思いに寄り添いながら、一緒に日々の保育や行事を進めていった。その結果、思いを受け止めてもらったことで、積極的に行事に参加する姿が見られたり、自分たちの話し合いで決まった学級のルールなどを、共有しながら生活を進めたりしていく園児の姿が見られた。

以上のことから、園児が発見やイメージを共有していくための手立てとして、保育教諭と園児が共主体となって保育を展開し、時には、保育教諭の「意図的な手立て」を取り入れることが有効であると捉える。そこで、具体的な手立てとして、主に「①サークルタイム」「②ウェブマップ」「③何でも色々メモ」「④何だろな BOX」「⑤ドキュメンテーション」の5つの手立てを意図的に取り入れる実践を行う。

(3) 対話を通して発見やイメージを共有していくための保育教諭の援助

教育・保育要領解説では、保育教諭は園児の心情など状況に応じた柔軟な対応をすることが大切であるとし、多角的な視点から園児の姿を捉える必要性について記している。

そこで、園児が、対話を通して発見やイメージを共有し、遊びを広げていくための、意図的な手立てと援助の工夫について考え、次の表1にまとめた。

表1 「主な5つの意図的な手立てと援助」筆者が作成

	意図的な手立て	○活動内容 ●期待できる効果	◎保育教諭の援助
手立て①	サークルタイム (何でもきりん 2組会議)	○保育教諭と園児が円になり、互いに顔を見合わせて行う話し合い活動。 ●保育教諭が子どもの思いや考えを聞いたり、引き出したりすることができる。 ●円になることで友達とのつながりを感じ、対話が深まり、思いを共有できる。	◎安心して思いを伝え合ったり、友達とのつながりを感じたりできるような雰囲気作りを行う。 ◎友達の考えに共感したり、違いに気付いたりするなど、保育教諭が園児の考えを受け止めつなぐ援助を行う。
手立て②	ウェブマップ (遊びの冒険地図)	○「やってみよう」と思ったことを中心に広がる遊びを、線や言葉でつなぐ。 ●園児の遊びや発見を可視化し、遊びの広がりをイメージし、共有できる。 ●園児の興味や思考の流れを知り、次の活動や援助を計画できる。	◎園児の思いや考えを整理し、自分なりの言葉で伝えられるよう言葉を引き出す。 ◎考えやイメージを膨らませ、遊びを広げていけるように、一緒にアイデアを出す。 ◎考えや発見をつなぎ、遊びのイメージを共有できるように、分かりやすく伝える。
手立て③	何でも色々メモ (振り返りメモ)	○園での出来事や発見、感じたことなどを振り返り、絵に描く。 ●サークルタイムに用いたり、掲示したりすることで、友達と共有できる。 ●遊びを振り返り、記憶や思考を深めることで、園児の遊びがつながり、広がる。	◎言葉で話したくなるような体験を、沢山できるような保育計画を立てる。 ◎メモを掲示したり全体で紹介し、思いを受け止めることで、友達の話しや考えに興味を広げ、共感したり共有したりできるように援助する。
手立て④	何だろうBOX (中身当てクイズ)	○中身の見えない箱の中に、遊びに必要な道具などを入れ、中身を当てるゲーム。 ●一緒に考えたり答えを話し合ったりすることで、対話的な関わりが深まる。 ●感じたことを言葉で表現し合える。 ●一緒に体験することで興味が広がったり遊びのイメージを共有したりできる。	◎クイズ形式にすることで「何だろう？」と、感じたことを言葉で表現し、友達と伝え合い対話が深まるようにする。 ◎「やってみよう」という期待の気持ちが膨らむように、楽しい雰囲気作りをする。 ◎園児の考えや発見を紹介し、遊びのイメージを共有できるようにつなぐ援助をする。
手立て⑤	ドキュメンテーション (〇〇ニュース)	○活動や遊びの過程や発見を、写真や言葉で記録し、可視化する。 ●園児、保育教諭、保護者が共に遊びを共有する「対話のツール」となる。 ●遊びや生活の中での発見や感じたことや、自分の成長に気付いたり振り返ったりすることができる。	◎写真を見ながら園児と一緒に作成し、感じたことや考えたことを、言葉で表現できるように引き出す。 ◎掲示することで、友達と気付いたことや感じたことを言葉で表現し合ったり、友達の考えに興味を持ち、真似てみたり、遊びを広げたりできるようにする。

(4) 保育記録を通した園児理解と、保育の改善・充実に向けた工夫

本研究では、これまでの自身の保育の課題を見直し、園児の姿をその園児らしさや育ちつつある姿として肯定的に捉える。その際、河邊（2019）の考えによる「SOAP」（図2）の視点で継続的な保育記録の記述を行い、園児にどのような育ちが見られたか等、園児の姿を記録し変容を見取る。その中で、園児がその子なりの考えを表現しながら、遊びを広げていくためには、どのような体験を積み重ねていけば良いのかを捉え、適切な援助を実践する。

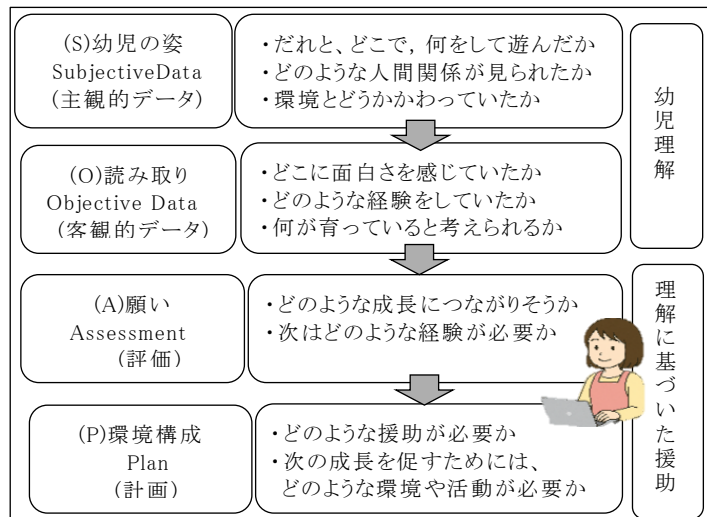


図2 河邊『SOAP』の視点を参考に筆者が作成

V 保育実践

1 保育計画

(1) 実態把握

本学級は16名中進級児が10名在籍している。4月、5月の「園児の遊びへの関わり」

について担任間での見取りや、園児への聞き取りを行なった。その結果、環境に主体的に関わって遊ぶ園児の姿が多く見られた。これは、自ら環境に関わって遊ぶ楽しさを感じる経験を重ねてきた園児が、多いことが考えられる。また、遊びの中で友達の話しを聞き、言葉でのやり取りを楽しみながら遊ぶ園児が6名、友達の思いや考えに共感したり、違いに気付いたりする園児が6名と、友達と関わりながら意欲的に遊ぶ園児の姿が多く見られた。しかし、友達の思いや考えを聞き、自分の遊びに取り入れたり、イメージを共有し合ったりしながら、一緒に遊びを進めようとする園児の姿は3名と少なかった。これらをもとに、「発見やイメージを言葉で表現し、友達と共有して遊ぶ姿」について、園児の実態を、表2のようにまとめた。

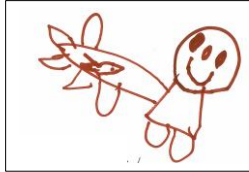
表2 発見やイメージを言葉で表現し、友だちと共有して遊ぶ実態

	過程1	過程2	過程3	過程4
園児の実態	自分の気持ちや思いを言葉や表情で伝えながら遊ぶ	友達の話しを聞き言葉でのやり取りを楽しみながら遊ぶ	友達の思いや考えに共感したり、違いに気付いたりしながら遊ぶ	友達とイメージを共有し合い一緒に遊びを進める
実践前	1名	6名	6名	3名

(2) 保育計画

○遊び・活動	◇ねらい・内容	☆環境構成	◎保育教諭の援助
5月(第5週) 【主な活動内容】 ○虫との関わり ○色水遊び ○製作あそび	◇身近な自然物に興味・関心を持つ。 ・朝顔やひまわりの生長に気付き、気付いたことを言葉で表現しようとする。 ◇友達に考えを伝えながら遊ぶ。 ・保育教諭や友達と好きな遊びを楽しんだり、様々な素材を使ってイメージする物を作ったりすることを楽しむ。	☆幼虫や、朝顔などの栽培物に関する図鑑や絵本などを用意し身近な自然に興味を持てるようにする。 ☆イメージしたものを作ることができるよう、様々な素材や材料を用意する。	◎身近な自然が出てくる絵本を読み聞かせ、身近な自然に親しみ興味関心をもてるようにする。 ◎園児の気付きや発見に共感し、園児が考えを言葉で表現できるようにする。
・サークルタイム	◇思いや考えを受け止めてもらう心地よさを味わう。 ・輪になる集団ゲームを通してクラスの友達とつながりを感じながら過ごす。	☆サークルタイムを設定し、友達と遊びや考えを共有できるようにする。	◎輪になることで友達とのつながりを感じ、安心して自分の思いや考えを伝えられるようにする。
6月(第1～2週) 【主な活動内容】 ○虫との関わり ○色水遊び ○製作あそび	◇身近な自然に興味・関心を持ち、不思議さに気付き、遊びに取り入れようとする。 ◇イメージした事を様々な素材や材料、道具を使って表現しようとする。 ・友達がしていることを見たり聞いたりして興味関心を持ち、やってみようとする。	☆幼虫や、朝顔など図鑑や絵本などを用意し興味関心が高まるようにする。 ☆イメージを膨らませられるように、様々な素材や材料を用意する。	◎一緒に考えたり写真などを見たりしながらイメージを膨らませられるようにする。 ◎色の不思議さに気付き、繰り返し考えたり試したりできるように援助する。
・サークルタイム ・何でも色々メモ ・何だろなBOX	◇発見したことや考えたことを言葉で伝える喜びを味わう。 ・保育教諭や友達に思いを受け止めて貰い、自分の思いや考えを伝える。 ・友達の話しを聞くことを楽しみ、気になることを質問しようとする。	☆「何でも色々メモ」を用意し、発見したことや、話したいことを、メモしておくようにする。 ☆「何だろなBOX」で、遊びのイメージを共有する。	◎必要な道具を園児と相談しながら一緒に用意する。 ◎疑問に思ったことや調べたことを伝え合い、認めたり共感したりしながら一緒に次の活動へ広げていく。
6月(第3～4週)～7月(第1週) 【主な活動内容】 ○色水遊び ○石けん遊び ○虫との関わり ○製作あそび	◇自分が興味をもったことを繰り返し遊ぶ楽しさを味わう。 ・色、形の違いなどに気付き、考えを友達と伝え合い遊びに取り入れようとする。 ◇いろいろな素材の違いに気付き、工夫したり試したりしながら作ることを楽しむ ・友達のアイデアを真似ながら遊ぶ。	☆作ったものを掲示し、遊びをクラス全体で共有しながら、広げられるようにする。 ☆色や性質などに関する表示などを用意し、興味・関心を広げられるようにする。	◎新たな考えが浮かぶような言葉がけをしたり、友達の遊びと繋げたりしながら自分なりの考えが広がり、試行錯誤しながら取り組めるように援助する。
・サークルタイム ・ウェブマップ ・何でも色々メモ ・何だろなBOX ・ドキュメンテーション	◇友達と考えを出し合い、遊びのイメージを共有し合う。 ・友達の思いに気付き、話しを聞いたり伝え合ったりして、イメージを共有する。 ・次の遊びに期待や見通しを持つ。 ・サークルタイムの名前をみんなで話し合って決め、意欲的に期待を持って参加する。	☆作成したウェブマップを掲示し、遊びに見通しを持てるようにする。 ☆園児の遊びをドキュメンテーションにまとめ、友達と遊びを振り返り共有できるようにする。	◎分かったことや感じたことなどを共有し、次の活動の意欲に繋がるようにする。 ◎一人一人のアイデアを認め友達の遊びとつなげる。 ◎可視化した掲示物を活用して一緒に対話を楽しむ。

(1) 発見やイメージを言葉で表現し、共有していくための意図的な手立ての工夫

	意図的な手立て	園児の姿容
手立て①	サークルタイム (何でもきりん 2組会議)	・輪になることで友達とつながりを感じ、安心して自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになった。 ・保育教諭も一緒に考え、分かったことや感じたことなどを共有しあうことで、次の活動への意欲につながった。 ・保育教諭が一人一人の思いを認めることで、友達の考えに関心を持ち、自分の考えを広げたり、友達の考えに共感したりする姿が見られるようになった。 
手立て②	ウェブマップ (遊びの冒険地図)	・園児が考えを整理し、自分なりの言葉で伝えられるよう、一人一人の思いを受け止める援助したことで、初めは考えがあまり出てこなかったが、回数を重ねるうちに「〇〇を作りたい」「〇〇ができるんじゃない?」と、考えが多く出るようになった。 ・園児の考えや発見などをサークルタイムで取り上げるようにしたことで、考えやイメージが膨らみ、友達とアイデアを共有することができた。 
手立て③	何でも色々メモ (振り返りメモ)	・一人一人の表現方法を認めることで、人前で話すことが苦手な子も、描いて飾っておく姿が見られた。 ・その日の出来事や感情を一度整理してから、振り返りの場で発表する姿が見られた。 ・「何でも色々メモ」に描かれたことを取り上げることで、友達の考えや発見をつなぎ、違う考えに気付いたり、遊びのイメージを共有したりすることができた。 ・友達のメモを見て、遊びを振り返ったり、質問したりするなど、対話が深まる姿が見られた。  
手立て④	何だろな BOX (中身当てクイズ)	・クイズ形式の仕掛けを用意することで、友達と楽しみながら、新しい遊びに興味関心を広げたり、一緒に取り組んだりする園児の姿が見られた。 ・「何だろう?」と友達と考えを言葉で伝え合い、一緒に考えるなど、園児同士の対話が深まる姿があった。 ・園児の心を揺さぶり、「やってみたい」という期待が膨らむことで、主体的に遊びを広げていく姿を見取ることができた。 ・保育教諭が、園児の考えや言葉をひろい、サークルタイムで取り上げることで、イメージを共有し、遊びを広げられるようになった。 
手立て⑤	ドキュメンテーション (〇〇ニュース)	・園児の遊びの中での考えや発見を可視化することで、友達と遊びを振り返ったり、自分とは違う考えに気付いたり、遊びのイメージを共有したりできるようになった。 ・園児と一緒にドキュメンテーションを作成することで、園児の感じたことや、遊びの中での思いを整理し、言葉で表現することができた。 ・次の遊びをイメージし、期待を膨らませる姿を見取ることができた。 

(2) 事例1 発見や考えを言葉で表現するための手立ての工夫

～思いを言葉で表現することに慎重なA児の変容を通して～

A児は、新入園児である。新しい環境の中で、興味のある虫観察や製作遊びなどにおいて、豊かな考えを発揮し、気の合う友達に思いを伝えながら遊ぶ姿がある。しかし、自分の考えを、振り返りの場などで積極的に伝えようとする姿は見られない。また、保育実践の場面では、馴染みのない保育教諭の姿に戸惑う姿も見られた。そこで、A児が安心できる場において、自分の考えを言葉で表現し合い、友達と一緒に遊びを進めていけるように援助の工夫を行った。その際、具体的な手立てとして、「SOAP」の記述法を用いた保育記録を行い、A児の育ちに寄り添った援助を実践した。

	園児の姿 (保) 保育教諭 (A) A児	読み取り	保育教諭の願い	◎環境構成 ○援助
6/11 (水)	- 保育室に入ってきた蝶々を捕まえようと、長く繋いだ牛乳パックの手作り網で蝶々を追いかける。 - 自ら図鑑で調べるなど積極的に遊びに関わる姿が見られた。 「サークルタイム」で、伝えようとする様子は見られない。	- 馴染みのない保育教諭や友達の中でまだ十分に自己発揮できていない。 - 生き物に興味・関心があり、生き物を通して友達と遊びことが多い。	- 保育教諭や友達と信頼関係を築き、少しずつ自己発揮しながら遊びを楽しんで欲しい。 - 興味・関心を持った遊びを通して、友達との関わりを広げていって欲しい。	◎ A児が興味・関心を持っている虫に関する環境を充実させ、遊びを通して、友達との関わりを広げていくようにする。 ○ A児と信頼関係を築き、遊びや生活の中で感じたことや思いを、言葉で表現していけるように援助する。 ○ A児の気付きを知らせ、友達と関わりをつなげるようにする。
6/17 (木)	- カバマダラの幼虫を見つけ友達と図鑑で調べていた。 「何でも色々メモ」に絵を描いていた。 (保)「みんなにも発表して欲しいな。」 (A)「家に持って帰る。」	「何でも色々メモ」を意識しているが、発表したいわけではない。 「何でも色々メモ」を使うことも、友達と遊びを共有できていると、見取れる。	本児なりの表現方法で、園での出来事や感じたことを表現していって欲しい。 	◎ 園児が「何でも色々メモ」に描きたいと思ったときに、すぐに描くことができるように、いつでも材料を用意しておく。 ○ 「何でも色々メモ」の使い方を見直し、言葉や絵で表現する以外の表現方法も認め、その子なりの表現方法を受け止めていくようにする。
6/25 (水)	保育教諭が保育室に入ると、すぐ話しかけてくる。 (A)「先生～髪切った」「見て！ペンギンのお家作ってる！」	- 少しずつ保育教諭に慣れ、楽しかったことや出来事を話したいと思っている。 - 言葉でのやり取りを楽しんでいる。	- A児の話したい気持ちを受け止めたい。 - 友達と、言葉で思いや考えを沢山伝えて、遊びを広げていく楽しさを味わって欲しい。	○ A児のアイデアを紹介し、イメージを共有したり、遊びを広げたりできるようにする。 
7/1 (火)	「サークルタイム」で、自分から手を挙げる。 - A児の発表から、他児の発表に広がる。 (A)「紙飛行機を作ったのが楽しかったです。」 園児1「何で飛行機を作ったんですか？」 (A)「かっこいいから」 園児2「園児1さんは、何で作ったんですか？」 園児1「〇〇さんが作っていたのがかっこよかったからです。」	少しずつ新しい環境に慣れ、自分の考えを伝えてみようという気持ちになった。	自分の思いを言葉に出来たことを認め、もっとA児の思いや考えを聞く。	◎ A児や、園児全体の興味関心を捉え、環境構成を充実させる。 ◎ 環境を通して、友達と沢山関わり、言葉で伝えたい経験を多く積み重ねることが出来るようにする。 ○ A児との信頼関係を築き、安心して自分らしさを発揮出来るようにする。 ○ A児の発表や考えをクラスでつなぎ、遊びを広げていく。
7/3 (水) 本時	一人で遊んでいる。 	- 見慣れない人が、保育室に沢山いて緊張している。 - 虫コーナーに、今日は虫がいない。	- 緊張している様子を受け止め、見守る。 - 安心して、普段通り友達と一緒に遊びを進めて欲しい。	◎ 園児が、好きな遊びを進められるように、環境を構成しておく。 ○ A児が安心して遊べるように、寄り添いつつ、好きな遊びと一緒に関わる。

 ◎園児が、主体的に好きな遊びを進められるように、環境や材料を用意しておく。 ○友達と、思いや考えを伝えながら遊びを進められるように、園児のつぶやきを拾い、つなぐ援助をする。	 ・クワガタが出てきたことで、気持ちが落ち着いた。	・安心して過ごし、興味・関心のあることを通して、友達と一緒に遊んで欲しい。	◎園児が、主体的に好きな遊びを進められるように、環境や材料を用意しておく。 ○友達と、思いや考えを伝えながら遊びを進められるように、園児のつぶやきを拾い、つなぐ援助をする。
 園児「そうだ、テープで。」 ◎A「ガムテープ取って！」	・ケースを暗くする。	・クワガタを通して、友達と遊び始めるきっかけとなった。	◎A児が興味関心を持つ「虫」のコーナーをA児と一緒に充実させる。 
 園児「これとかいいんじゃない？牛乳パック」 ◎A「よし！」 「出てきたらいいなあ。」	・「暗くしよう」という友達の言葉を聞き、A児が工夫し始めた。	・友達の考えを取り入れ、遊びを広げたと見取れる。	◎A児たちが作ったクワガタの家をみんなが見える場所に置き、発想やイメージをクラスで共有できるようにする。 ○A児が友達と考えを共有し合えた姿を認め、次の遊びへの広がりにつなげていく。  見まだる隙間！

【考察】

「SOAP」の記述法を用いた保育記録を、継続して行ったことで、A児の思いや育ちの姿を捉え、見通しを持った援助を実践することができた。また、保育実践の中でA児は、サークルタイムなどのクラス全体での活動において、積極的に自分の考えを伝える姿はあまり見られなかった。しかし、「何だろなBOX」「何でも色々メモ」などの、保育教諭による意図的な手立てとしての活動に興味を示し、意欲的に関わる姿が見られた。これらの活動を通して、友達と考えやイメージを共有して遊びを進めたり、その中で友達と気付いたことや考えを言葉で伝え合ったりする姿が多く見られるようになった。さらに、A児の発想や発見に気付いた園児が考えを取り入れ、自身の遊びを広げていくなど、友達同士で刺激し合い、遊びを広げていく姿も見られるようになった。これらのことから、思いを言葉で表現して遊びを広げていくために、対話を通した意図的な手立てが、有効であったと考える。

(3) 事例2 考えやイメージを共有して遊びを広げる手立ての工夫

～B児の対話を通した遊びや友達との関わりの変容～

B児は、進級児であり、4歳児クラスでは気の合う友達と一緒に、好きな遊びを進める姿が見られた。しかし、進級後は一人で遊ぶ姿が多く見られるようになり、実践前アンケートでは「一人で遊ぶのが好き。静かだから。」と答えていた。そこで、B児が友達と考えやイメージを共有しながら、一緒に遊びを広げていけるような対話を通した援助の工夫を行った。A児と同様「SOAP」の保育記録を行い、B児の思いに寄り添った援助を実践した。

	園児の姿 ② B児	読み取り	保育教諭の願い	◎環境構成 ○援助
6/11 (水)	・蝶々が保育室に入り、友達が長い網を作っている様子を見て、B児も自分用の小さな網を作る。	・友達が網作りをしている姿を見て自分が使える網を自分なりに作ってみようと考えた。	・友達の姿から興味を広げて欲しい ・B児の一人でゆっくり遊びたい思いも受け止めた。	◎図鑑などを用意し、興味・関心が広がるようにする。 ○サークルタイムで、他児の遊びを取り上げ、意欲的に関わる活動を増やす。

6/17 (木)	・「サークルタイム」の名前決めて、自分から手を挙げて考えを伝えている。	・クラスの友達と繋がりを感じ、意欲的に話し合いに参加している。	・思いや考えを言葉で表現し、友達の考えとの違いに気付いたり共感したりする経験をして欲しい。	◎B児の興味・関心を捉え友達と遊び込める環境を構成する。 ○友達の考えや思いを聞いたり、自分の思いを伝えたりする楽しさを味わえるようにする。
6/24 (金)	・色水を小さなボトルに入れ、友達と一緒に並べている。  ◎「見て！お化粧～」	・朝顔の花が沢山採れるようになったことで、色水遊びの楽しさを思い出し、何度も試している。 ・「お化粧」を通して友達とイメージが繋がった。	・好きな遊びを通して友達と沢山関わり遊びを広げて欲しい。 ・友達との関わりの中で、思いを伝え合い、様々なことを経験して欲しい。	◎本児がやってみたいと思えるような環境を整え、興味・関心を広げられるようにする。 ◎十分に遊び込めるような材料や素材を用意する。 ○遊びの中で友達と沢山の関わり、様々な経験を重ねていくことができるように、保育教諭も一緒に関わりながら繋いでいく。
6/25 (水)	・石鹸遊びを繰り返し、言葉のやり取りをしながら遊んでいる。 ◎「私のはクリーム。」 「ケーキ屋さん。」 ・「サークルタイム」で今日の出来事を伝えた。 ◎「昨日は白だったのに今日は強い青になった」	・初めて経験した石鹸遊びの感触や変化などに興味を持ち、繰り返してやっている。 ・発見したことや感じたことを言葉で伝えたり、友達との言葉のやり取りが増え、友達との関わりも広がった。	・本児の興味をもっと広げ、遊びを深めて欲しい。 ・遊びの中で友達との関わりを広げ、思いや考えを言葉で伝え合う楽しさを味わって欲しい。 ・場面によっては、本児が一人でじっくり遊びたい気持ちも受け止める。	○本児の発見や感じたことを、遊びやサークルタイムの中で取り上げ、本児の良さや考えに気付くようにする。 ○B児が一人でじっくりと遊びに関わりたいたいような時には、無理強いせずに本児のペースに合わせて見守る。 
7/1 (火)	・「ドキュメンテーション」を見ながら友達や保育教諭と会話をし楽しむ姿が見られた。	・写真を見ながら遊びを振り返り会話をし楽しむ。	・友達の遊びを振り返り、考えやアイデアを共有し、遊びを広げて欲しい。	◎園児の遊びを可視化することで、友達の遊びと自分の遊びのイメージを共有できるようにする。
7/3 (水) 本時	・石鹸クリームを繰り返して作り、ふわふわに完成させる。  園児「あー、だめだ。また柔らかい。」 園児「どうしたら、固くなるの？」 ◎「砂糖(石鹸)を沢山入れたら固い。水をいっぱいだと柔らかい。」	・毎日繰り返し遊んでいるので、B児はうまく泡立てるコツを掴んでいる。 ・ホットケーキ作りの経験からイメージを膨らませて遊んでいる。	・B児の経験やイメージを、言葉で自分なりに表現しながら、友達と考えを伝え合い、遊びを共有して欲しい。 ・B児の頑張りや、アイデアなど、児の良さに周囲も気付く、B児の考えを取り入れながら一緒に遊びを広げて欲しい。	◎園児が十分に遊び込めるような材料や素材を用意する。 ◎イメージを膨らませたり、共有したりできるような表示や材料を用意する。 ◎もっとやりたくなるような場の設定や材料の用意をする。 ○アイデアや経験をサークルタイムで紹介しイメージを共有できるようにする。  

【考察】

A児と同様、「SOAP」の記述法を用いた保育記録を継続して行ったことで、見通しを持った援助を実践することができた。また、B児の遊びの姿から、十分に遊び込むことができるような環境を再構成した。環境を見直し、イメージをさらに膨らませられるような、花や容器などの材料を沢山用意することで、クラス全体の遊びが広がった。B児も友達との関わりを広げ、発見したことをサークルタイムやウェブマップの中で積極的に伝えたり、ドキュメンテーションを友達と見ながら遊びを一緒に振り返ったりする姿が見られた。これらのことから、友達とイメージを共有して遊びを広げていくために、対話を通した意図的な手立てや、園児の育ちに寄り添う保育記録の実践が有効であったと考えられる。

3 園児の変容

発見やイメージを言葉で表現し、友達と共有して遊ぶ姿について実践前を実践後で比較し、図3のようにまとめた。実践前、過程4の園児が3名であったのに対し、実践後には8名に増えた。また、過程2であった園児が、過程3に移行するなど、それぞれの育ちの

中での変容が見られた。A児やB児においても、過程2から過程3に、過程3から過程4に移行すると共に、考えを全体場で伝える場面が増え、他児がその考えを認め遊びに取り入れてみるなど、遊びが広がるきっかけを作る姿も増えた。一方で、元の過程に留まり、変容が見られなかった園児が5名いた。

○：実践前 ●：実践後 ◎：前後同じ過程

過程1 自分の気持ちや思いを言葉 や表情で伝えながら遊ぶ	過程2 友達の話を聞き言葉での やり取りを楽しみながら遊ぶ	過程3 友達の思いや考えに共感したり 違いに気付いたりしながら遊ぶ	過程4 友達とイメージを共有し 合い一緒に遊びを進める
◎	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ● ● ● ●	● ● ● ● ◎ ◎ ◎ ◎ ●

図3 園児の遊びの過程における変容

実践前の聞き取りでは、「サークルタイムで友達が話していたこと」の質問に対し大半の園児が「忘れた」と返すなど、答えられた園児が2名だったのに対し、実践後には答えられた園児が7名に増えた。中には発表した友達の名前を挙げ、内容を説明できた園児の姿も見られた。また「明日やってみたいこと」に対し、「○○さんみたいにトロトロの石クリームを作りたい」「○○さんが泡立て器でシャボン玉してたのやりたい」など、友達の話や遊びから刺激を受け、自分もやってみたいと心を動かされる園児の姿も多く見られるようになった。さらに検証後の保護者アンケートでは、「最近話していた気付いたことや発見したこと」に対し、「○色と○色を混ぜたら○○だよ」「図鑑で虫の名前を調べた」「友達の話をよくするようになった」などの回答があった。以上のことから、友達の関わりの広がりや、友達の遊びや発見に共感する園児が増えたことが見取れた。

VI 成果と課題

1 成果

- (1) 保育教諭の「意図的な手立て」による、環境構成や援助の工夫を行うことで、対話を通して発見やイメージを言葉で表現したり、友達の考えを聞いたりして、共有しながら、一緒に遊びを広げていくことにつながった。
- (2) 継続的な保育記録で個々の育ちを読み取り、一人一人の興味・関心に寄り添った援助を行うことで、園児が安心して、自分の考えや発見を、その園児なりに表現しながら遊ぶことを楽しむ姿が見られた。

2 課題

保育実践前後で変容があまり見られない園児がいた。本研究では抽出児のみ「SOAP」の記述法で保育記録を作成したが、園児同士が対話を深め、協同的な遊びへと発展させていくために、今後保育記録をさらに広く活用し、それぞれの発達に合わせた援助を工夫し、継続することが必要である。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館	2018
『事例で学ぶ保育内容・領域「言葉」』	無藤隆 監修・宮里暁美監修代表 萌文書	2007
『子どもが中心の「共主体」の保育へ』	大豆生田啓友 監修・おおえだけいこ著 小学館	2023